

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）

留学（中間・結果）報告書

甲府西高等学校
名取 知花

約1年間の留学生活が終了した。親元を離れての生活は思った以上に簡単なものではなかったが、友達やホストファミリー、コーディネーターなど沢山の人に支えられ、無事に留学を終えることが出来た。コロナウイルスの影響もあり予定通りの留学とはいかなかったが、この留学を通して多くの人と出会い、貴重な経験を沢山することが出来た。そして、その全てが私の価値観や物事の見方や考え方に大きく影響を与えてくれたと思う。

私は1年間の留学生活の間に、3組のホストファミリーにお世話になった。カナダ人の一般家庭だけでなく、カナダに移住しているアフリカ人のホストファミリーとも生活を共にすることが出来た。カナダは、移民の国である。そのため、様々な人種や言語が日常生活の中に入り混じり、人々はお互いを尊重し、支えあって生活をしてきた。日本で生活をしてきた私は、このような社会の在り方に、大きな刺激を受けた。クリスマスやイースターなど様々な年中行事をホストファミリーと一緒に祝い、日本では経験することのできない現地の生活習慣や伝統文化に触れることができ、貴重な異文化体験となった。

私の住んでいたノバスコシア州では、コロナウイルス感染症の影響で3月半ばからすべての学校を閉じ、オンライン授業に切り替わった。そのため、現地の高校には予定していた期間より少ない日数の登校となってしまったが、とても貴重な体験をすることが出来た。私の通っていた高校は2学期制で、学期ごとに自分の取りたい科目を4科目選択することができ、私はヨガやプロダクションテクノロジーなど、日本の高校では学べないような科目を積極的に選択するようにした。現地での授業は日本での受け身な授業とは違い、先生と生徒が一緒になって授業を作っているように感じた。生徒が積極的に発言をしたり、プレゼンテーションなど人前に立つ機会を多く設けたりする授業の様子に刺激を受けた。私も



山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース) 留学結果報告書

実際にクラスメイトの前に立ちプレゼンテーションやスピーチ、グループでの活動をする機会があり、とても良い経験をする事が出来たと思う。プレゼンテーションやスピーチでクラスメイトにわかりやすく説明するためには、まず自分が学習内容をしっかり理解する必要がある、能動的に学習活動に取り組むことに繋がった。今後の高校生活や大学でもこの経験をいかし、学習への向き合い方を変えていきたいと考えている。

私は日本の高校で書道部に所属しており、現地の人に日本の書道の美しさを知ってもらうための活動をした。書道道具を持参していたので、ホストファミリーや近所の人、他の国から来た留学生などにオリジナルの作品をプレゼントしたり、書道を教えたりした。この活動を通して、沢山の人が面白い、美しいなど日本の書道に興味を持ってくれた。小さな子供達は、アルファベット以外の文字を使って生活をしている人々がいるということを知るきっかけにもなることができ、沢山のの人に書道の魅力を知ってもらえると同時に、日本の伝統文化も伝えることが出来た。また、この活動を通して世界と日本の間にある文化、習慣、制度などの“違い”にも気付くことが出来た。そこで、私は留学期間後半に差し掛かった頃、留学先であるカナダをはじめ、ヨーロッパ、南米、アジアなど多くの地域からカナダに来た留学生に「海外の英語教育や留学に対する意識」、「日本への印象」などをテーマにアンケートを取ることにした。このアンケートはまだ集計途中だが、このアンケートを通して気付いたことがいくつかあった。そのうちの1つとして自分の国に満足をしておらず、将来母国ではない国に住むことを強く望んでいる人が多くいることがわかった。私の友人にも自分の国の教育制度がよくない、国内で紛争がある、留学先で国籍を取るためなど、様々な理由から留学をしている人が沢山いた。このようにアンケートから様々な観点で世界と日本の違いを読み取ることが出来た。私は将来英語を楽しく教えることができる小学校の先生になりたいと考えている。現在、日本では英語が嫌いであったり、苦手意識を持っていたりする生徒が多い。しかし、英語でコミュニケーションをとることの楽しさを知ることは、これらの意識をなくすことに繋がると思う。このアンケートを、これから先さらに掘り下げていき、海外での英語の教育方法などを知ることで、日本での英語教育を良い方向に変えていくヒントを得ることができるのではないかなと思う。



山梨県若者海外留学体験人材育成事業(高校生コース) 留学結果報告書



留學生活の中で強く印象に残っているできごとがある。それは、今年の4月に私の留學先であるノバスコシア州で起きた、カナダ史上最悪の無差別銃乱射事件だ。20名を超える人々がこの事件によって亡くなった。この事件のあと、犠牲者へ追悼の意を込めてパレードが行われ、“**Novascotia strong**”の文字を町中で見かけるようになった。この言葉には、この事件を決して忘れず、強く生きていこうという意味が込められている。小さな町で起きたこの事件は、ノバスコシアに住む人々を驚かせ悲しませた。事件が起きた場所は、私の住んでいた地域とそれほど遠くなく、あらためて日本は安全な国である

ることを再認識するとともに、銃規制の大切さに気付くことができた。

この留學は多くのことを経験し学ぶことが出来たのはもちろんのこと、自分自身を見つめなおすきっかけにもなったと思う。留學が出来ていることの幸せ、日本という国に生まれ、安全な環境で生活ができることの幸せ、自分はとても恵まれているのだと気づかされた。この留學で学んだこと、感じたことを忘れず、今後の生活にも生かしていきたい。

